

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 加治川の里
(ユニット名)	あやめ
所在地 (県・市町村名)	新潟県新発田市
記入者名 (管理者)	小川 多美子
記入日	平成 21年 3月 13 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	グループホーム独自の理念を作り、グループホームの玄関や居間などの目につく場所に掲示している。	ご利用者様、一人一人がその人らしい生活を笑顔で送れるよう支援することを心がけている。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	グループホーム目につく場所に掲示している。また生活記録の表紙記載されていて、職員が共有できるように、職員会議に確認している	収集できた情報に基づき、ご利用者一人一人にとって最善の生活を職員が話し合い、笑顔を引き出せるよう支援している。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	広報誌を発行し、地域に回覧したり、家族や居宅介護事業所などに配布している。また契約や面会時に説明している。	広報誌をご利用者とともに市役所支所や小中学校、包括支援センターに配り、地域の人に理解してもらえよう取り組んでいる。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	隣接する畑作業中の隣人と話をしたり、散歩の途中に声を掛けてもらってお茶をご馳走になったりしている。回覧板も今年から回ってくる事になり、回覧板を職員とご利用者様と一緒に、隣に置きにしている。	広報誌で呼びかけたり、隣接のディサービスの催し物に参加の回覧を回してもらって施設によってもらえるように声を掛けているが、気軽に寄ってはもらえない。時間をかけて働きかけるとともに、出かけていく機会も増やしたい
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の盆踊りや美化活動の缶拾い、地域の文化祭、健康講座等に出かけていき、交流できるように努力している。	運営推進会議で地域の情報を教えてもらい、出来るだけ行事に参加したいと心がけている。地元出身の職員もなく、なかなか地域に溶け込むことが困難な状態だが、少しずつ距離を縮めていきたいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	広報誌に介護メモのコーナーを企画し、認知症について掲載している。市役所の高齢福祉課にも認知症のことでお役に立てればと話したが、参加依頼などはない状態である。小中学校の先生には広報誌を配った時に職場体験の機会に参加させてほしいとお願いしてある。		グループホームで地域の方と認知症や介護のことについて、勉強会をしたり、小中学校の職場体験等の授業に役に立てればと思い、声掛けしている。継続した活動をしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で行い、自己評価することで新しい気づきを感じている。また外部評価を職員会議において、反省し改善に取り組んでいる。		外部評価を受ける事により、問題点を外部から提示していただいたり、それを改善することを職員全員で検討している。運営者はじめ職員全員でよりよいホームになるように取り組んでいる。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の情報を教えてもらったり、提示した問題点にアドバイスをもらったりして、サービス向上に取り組んでいる。		運営推進会議で話し合ったことを生かして、サービスの向上に取り組んでいる。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に出かける機会が少ないため、広報誌をご利用様と一緒に届けている。認知症の研修会があったら声を掛けてほしいとも話しかけてある。		これからもご利用様とともに出かけていく機会を持ち、市町村との連携をはかっていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護を使う事例があって、管理者が中心になっている。わかった事は職員に随時話しているが、難しいという意見が多い。		運営推進会議時に相談すると、包括支援センターで講師をしてくれると聞き、早いうちに勉強会を開催したい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は介護するにあたって、虐待にならないか、その都度話し合っ、支援している。		運営推進会議時に相談すると、包括支援センターで講師をしてくれると聞き、早いうちに勉強会を開催したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者や職員は契約時や面会時にて、不都合なことがないか声を掛けるようにしている。また理解していただけるように、連絡や話し合いを行っている</p>		<p>契約時には十分に説明を行い、納得の上で契約を交わすようにしている</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時に苦情のことにについてよく説明している。苦情があったときも職員会議や運営推進会議で説明報告しており、意見を出し合ってもらったり、改善している</p>		<p>苦情は職員会議で報告し、改善するよう話し合っている。また運営推進会議でもアドバイスをもらい、改善に反映している</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>請求書と一緒に月1回、近況や預かり金の報告している。急な病気や怪我などは電話で連絡し、ご家族の意向に沿えるように支援している</p>		<p>月1回管理者が手紙で近況を伝えている。状況がわかって良いとか楽しみにしているという家族の声もある。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時にご家族に声を掛けて、意見を言いやすいようにしている。家族が集まる忘年会にアンケートを記入してもらっている。</p>		<p>年1回、忘年会を実施し、家族同士話し合える機会を作り、アンケートも記入してもらった。誕生会にも家族と一緒に過ごす機会を設けている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議で意見や要望を出し合い、管理者が経営者に伝えている。また経営会議での会議録は、回覧している。</p>		<p>経営者と管理者は問題点があればすぐ相談できるようになっており、職員の意見や提案をすぐ話し合いが出来る状態になっている。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ご利用者様の状態の変化や受診日などに調整を行っている。急な受診なども、2つのユニットの職員が話し合ったり、やむを得ない時は合同でレクリエーションを行い、調整している。</p>		<p>2ユニットの両方を勤務する職員が3名おり、管理者が入ったりして対応している。2ユニット合同のレクリエーションをおこない、緊急時に対応している。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職や移動で職員が変わるときは、隣のユニットから移動したりして職員ががらりと変わることがないように配慮している</p>		<p>時々行う合同のレクリエーションや2ユニットを兼務する職員がいたりして、全職員と全ご利用者様関係を持つように配慮している。職員の交代があったときも馴染みの関係を継続できるように配慮している</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修の参加や法人3つのグループホーム職員の合同研修を行った。また法人3つのグループホームの計画作成者と居宅のケアマネと合同で事例検討会をしている	今年度は現在行っている研修に加え、定期的な合同の研修会を計画している。また他事業所のグループホームとの合同の研修会を開いて情報交換できるようにしたいと考えている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修において、他事業者の職員との交流があり、互いに施設訪問している。	他事業所のグループホームと合同の研修会を企画し、職員間の交流をしたいと考えている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者はよくグループホームに立ち寄って気軽にご利用者様や職員に話しかけている。また年に数回、法人職員が集まって、親睦会を行っている。また、月1回のユニット会議や職員会議で業務等で困っていることを話し合ったりしてストレスの軽減に努めている。	今まで行っていることの継続と今後、法人3グループホームの研修会を行い、職員間の交流を加えストレスの軽減を図りたい。また管理者に対しても、管理者会議があり、相談しあえる環境になっている。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者はホームに来て職員と話をしたり、畑作業をしながらホーム内をみたりして、勤務状態を把握している。また、資格習得したり、しようとしている職員を励ましたり、声を掛けたりして向上できるように努めている。	3ヶ月の使用期間を経た後、正職員に採用したり、各職員の努力によって賞与に反映している。また移動等も本人の意向に沿えるように行っている。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時、面接時、契約時など家族や担当ケアマネジャーなどから情報として聞くようにしている。また、ご本人からは不安にならないように会話の中から聞き出すようにしている。	利用の前に、ホームを見学してもらい、ご利用者様や職員と話をし不安の軽減に努めている。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時、面接時、契約時など家族や担当ケアマネジャーなどから話を聞いて情報収集している。また、施設の見学をしていただき、ホームの説明を行っている。	ご家族からはよく話を聞くようにしており、要望などは可能な限り添うように職員と話している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご家族やケアマネジャーなどからよく話を聴き、グループホームの説明を行っている。その上で必要としている支援を互いに確認しながら、他のサービスの説明等もやっている。		グループホームで出来る支援を説明しながら、ご家族やご本人様の要望とを照らし合わせて、意向に添わない場合は、他のサービスや他のグループホームの説明や紹介を行っている。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ショートスティやデイサービスに通っている時にホームに来てもらったり、職員やご利用者がショートスティやデイサービスに行き話したりして馴染みや早く出来るようにしている。		併設のデイサービスやショートスティからの利用が多く、合同での催し物の時にご利用者同士顔を合わせる事があり馴染みになっている事もある。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームでの共同生活の中で、常に人生の先輩である事を念頭に置きながら過ごしている。また会話の中から、その人の歴史や本心なども垣間見ることが多く、職員で共有しながら、互いに助け合いながら生活している。		作業の時も一方的に指示するのではなく、話しかけ共同作業しながら行っている。ご利用者様の話の中から職員が学ぶ事が多く、会議や申し送り時などで共有している。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙の中で家族に対して問いかけたり、お知らせしたりして問題的事ばかりでなく、良い面も伝えていくようにしている。また、面会の時は必ず家族に話しかけるようにして、ご本人を中心にして、職員とご家族が良い関係を築けるようにしている。		近況をお知らせする事で状態把握が出来、方向性を話し合いながら支援する事が出来ている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人や家族からの情報の他にさまざまな関係者からの情報を加え、これまでの関係を理解した上で、良い関係を築いていけるように外出や帰宅の提案をしたり、誕生会などで一緒に過ごす時間が持てるように支援している。		各々の想いを理解した上で、それぞれの想いも伝え、より良い関係を構築できるように支援している。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人が訪問していただいたり、手紙や電話のやり取りをしている。		誕生会や忘年会などにも参加できるように働き掛けている。また、今まで仲良くしていた知人が尋ねてくれたり、遠方の知人から送り物を頂いたお礼の電話をかけた時、関係が継続できる支援をしている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が間入り、お茶や食事、談話等でご利用者同士が関わりをもてるように支援している。		同じ作業を複数のご利用者で行う事で、ご利用者同士が係わり合い、支え合えるように支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了してもご本人やご家族から依頼があったり、継続的な関わりを必要とする場合は、訪問したり、定期的に連絡を取り合ったりしている。		サービスが終了後、在宅に戻っていても、包括支援センターや市役所の保健師と連絡を取り合い、自宅を訪問したり、電話で連絡を取ったりして継続した関係を大切にしている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で職員が思いや意向を受け止め、職員間で共有している。困難な場合においても、ご家族から聞いたり、ご本人の言動から解ったことを職員間で話し合いながら、把握に努めている。		たとえ認知症が重度でご本人の意向を表現できない場合でも、ご本人の言動の中で重要なことを職員間で共有し、検討しながら把握に努めている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から情報を得たり、自宅に訪問したり、今まで利用していたサービス事業者やケアマネジャー等から情報収集して把握している。		入居時にご家族や関係者に聞き、その後もご家族やご親戚などが面会の時に情報収集している。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご利用者個々の言動や行動を生活記録に記入したり、特別重要な事は申し送り簿に記入し、全職員が把握できるようにしている。		生活記録で不十分な時はチェック表を作成し、把握に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族様から思いや意向を伺い、それらを反映できるように職員で話し合い、作成している。		職員間での話し合いにより、アイデアを出し合っている。またユニット会議でカンファレンスを行い、職員全員の意見が反映されるようにしている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご利用者様の状態変化に応じて、ご家族やご本人、職員等と話し合い新たな介護計画を作成している。		ご利用者様の状態変化があったときは、ご家族に連絡し、介護計画作成における意向を伺っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者一人一人の生活記録を作成し、時間を追ってかわった職員が記録を記入している。		生活記録とケアプランが同じページで管理されており、常に評価できるようになっていて、記録を記入しながらケアプランの評価を記入している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族の要望などによって、法人のディサービスやショートステイ、居宅ケアマネジャーに紹介している。また、ホームで急変があった場合は、ディサービスやショートステイの看護師が見てくれたり、協力医の往診も昼夜問わず受けられ、ターミナルケアの行なっている。		ホームには看護師は居ないが、併設施設からすぐ来られる体制があり、協力医の往診も柔和である。そのため、ターミナルケアもでき、開設依頼3件の看取りを行なった。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご家族の承諾を受け、行方不明の対応で、顔写真と名前や特徴等をあらかじめ駐在所の届けたり、救急法をホーム内でご利用者と一緒に受けたりして消防署員や警察官がホームに来ていただいて協力を得ている。		地域資源と協力する上で、ホームや認知症の理解をしてもらうことが第一と考えている。なかなか進まない地域との協力の中において、まずホーム側がホームのご利用者と共に積極的に出かけていこうと思っている。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご利用者様の必要性に応じて、他事業所との話し合いをしたり、相談してご本人にとってよりよいサービスが提供できるように支援している。		包括支援センターや他事業所のケアマネジャー、事業所などの話し合いをしている。また、医療の事に関しては、協力医に相談できる環境が整っている。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーに包括支援センターの職員がはいっており、さまざまな必要性に応じて協働している。		入居前に包括支援センターがかかわっている事も多く、入居してからも必要な時は連絡し協働している。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族やご本人の意向に沿うよう支援している。ご家族が通院介助されている場合も、ご本人の状態の変化があった時は職員も同行したり、手紙で主治医に状態を伝えたりしている。		急な発病時は、ご家族と連絡をとり、通院介助し意向に沿えるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医に通院しているご利用者様の通院介助に行き相談したり、協力医を介して相談している。		協力医に相談し、協力医から専門医に紹介してもらい、専門医に受診できるように支援している。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設の看護師や協力医の看護師に相談できる体制ができていて、健康管理等の支援をしている。		併設施設の看護師はすぐに駆けつけてもらえる。また協力医の看護師は夜間でも電話で相談できる環境にある。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は、できるだけ早期に退院できるように病院と相談している。また入院中も安心して過ごせるように、職員が行ったり、ご家族と話し合ったりしている。		病院側から早期退院の相談があった場合は、安心した生活ができるように、可能な限り受け入れできるように、協力医や職員間で話し合い、早期退院できるように努めている。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては、ご本人やご家族の意向を受け止め、かかりつけ医や併設施設看護師、職員などと繰り返し話し合いながら行っている。		ゆれるご家族やご本人の思いを受け止め、何度も繰り返し話し合っている。またかかりつけ医との話し合いにも家族に職員が同行し、ご本人はもとより、ご家族の支援もできるように心がけている。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人やご家族の意向を確認して、ご家族とかかりつけ医、職員とが協議して、ホームでできる事、できない事を明確に伝えている。かかりつけ医とチームで支援し、終末期ケアもおこなった。		終末期の支援の中で、選択に揺れる家族の相談を受けたり、かかりつけ医と相談できるように支援を行った。今後も終末期ケアを希望している方がおり、かかりつけ医とチームで支援するように取り組んでいきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人やご家族の希望で移転する場合は、移転先に文書で情報提供している。また、市町村や包括支援センターなど関係先とは情報交換して、安心した生活ができるように支援している。		ご本人やご家族を時々訪問や電話で近況を聞いて、その情報を市町村や包括支援センターに報告している。また家族が困っていることにアドバイスしたり、ホームではどうしていたかなどを伝えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員会議やミーティングの時に注意しあったり、雑誌や新聞等の回覧をして、職員の意識向上に努めている。</p>		<p>ふさわしくない記録や対応があった場合は、直接管理者がその職員に対して注意をしている。今後、内部研修に取り入れ、徹底していきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ご本人に寄り添い接しながら、話しかけ自己決定できるような支援をしている。またなかなか言葉で表現できないご利用者様には、しぐさや日頃の様子を踏まえながら希望に添えるように支援している。</p>		<p>日々のなにげない会話の中で、本心を表現することも多くあり、それを記録して職員間で共有し、自己決定に反映できるように支援している。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員会議等で主役はご利用者様、職員は黒子だということを確認しあっている。ご利用者一人一人のペースで生活する事を大切に支援している。</p>		<p>食事はそれぞれのご利用者様のペースに合わせていて、朝食を遅れて摂ったり、1時間以上かけて食べたりしている。ご本人の希望で、ご本人のペースで支援できるようにしている。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>化粧ができるように支援をしたり、ご家族と好みの美容店に外出できるように支援している。</p>		<p>化粧品の買い物を職員としたり、本人に聞きながら、洋服を選んだりしてその人らしいおしゃれの支援ができるようにしている。またご家族に好みの服を聞いている。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>できる人、したい人が食事の準備や片付けを職員とともにやっている。食事の作業の中で、自分が役に立っているという事を実感できるように、感謝の声掛けを多くするように心がけている。</p>		<p>それぞれ希望を生かし食事の準備を行っている。またできないことでも、職員が見守りながら励ましながら声をかけることによって、できるようになることも多い。感謝と励ましの声掛けをするようにしている。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ご本人やご家族より聞き、ご家族の協力を得ながら支援をしている。また、主治医に相談しながらできるだけ、ご本人の嗜好が楽しめるように支援している。</p>		<p>ご本人様が好きな菓子を希望時に摂取できたり、煙草を楽しめるように支援している。また、好きな晩酌が楽しめるように、ご家族に協力を得られるように調整している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定期的トイレ誘導し、トイレでの排泄を支援したり、排泄チェック表で排泄パターンを把握して排泄を支援している。		夜間はオムツでも、日中は紙パンツで、また、夜間紙パンツでも起床時に布パンツに履き替える支援をして、オムツにならないように支援している。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前は必ずご本人に確認し、一人一人の合わせて、くつろいだ入浴ができるように支援している。		入浴の拒否のあった人にも時間を置いて再度入浴の声をかけて、希望に添って、気分よく入浴できるように支援している。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人やご家族に生活習慣うかがい、自宅と同じ方法を行ってみたり、湯たんぼなどの暖房用品を使用している。また、ご本人の言葉に傾聴し不安が軽減するように声をかけて安眠の支援をしている。		晩酌を支援したり、ご本人の不安を軽減するような声掛けをしている。また、ご本人の好きなビデオや番組を職員も一緒に見ながら、お茶や会話を楽しんだりして支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご本人できること、したいことを大切に、職員は感謝や励ましの声をかけて、支援している。また、日々の会話のなかで、楽しみごとを見出し、実現する事で気晴らしの支援をしている。		ケアプランの中で、ご本人の日課や役割を取り入れて実行できるようにしている。それを行う時は、励ましと感謝の言葉がけを行い、役にたっているという実感と自信が持てるように支援している。また、個別に外出しご本人の嗜好品を食べたりして気晴らしの支援を行っている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様一人一人の希望や能力に応じて、お金を所有している。そして、好きなものを購入する時は、自分で支払いしたり、支払いを把握できるように、小遣い帳を記載したりしている。		買い物時は自分の財布から支払ってもらうように支援したり、外出の時は自分の好きなものを買えるように支援している。また、お金を所持したい希望のご利用者様があった場合は、ご家族様と協議して所持できるように支援している。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日に散歩に出かけたり、買い物に外出したりしている。また日常的に帰宅要求のある方の外出に付き添っている。		散歩や畑作業に外出したり、天気の良い日は中庭で昼食をとったり、外出して外食を楽しんだりしている。また外出したい人に付き添い希望に添って出かけることもある。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	自宅に帰りたいご利用者様のご家族にお話して帰宅の機会を作ったり、花見やお祭りに出かけたりしている。		他の利用者様とともに花見やお祭りに出かける支援をしたり、実家に家族の支援を得て、行くことができたりしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望で電話をかける支援をしたり、手紙をもらった時は手紙を書くようすすめたりしている。		ご家族やご本人の希望で電話を支援している。ご家族にはご本人の気持ちを職員が代弁してご理解が得られるようにしている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員は、ご家族や知人などの訪問時にいつでも来てくれるように話しかけ、お茶やお菓子をだして、お部屋に案内し、個別に面会できるように支援している。		面会の時は、ホームの様子を伝えるとともに、元気だったころの様子も伺うようにしている。お帰りの時もまた来てくれるように声掛けしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者および職員は身体拘束は行ってはいけないと意識をもっており、拘束ケアをおこなったことがないし、今後もしない。		職員会議などで、身体拘束の禁止について話し合っていて、拘束をした事がない。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は鍵を掛けないケアを理解していて、鍵を掛けていない。		日中は玄関に鍵をかけていない。夜間に居室はご本人の希望に応じて、施錠している。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご利用者様一人一人の行動パターンを把握し職員が共有できるようにミーティングなどに申し送っている。そして、ご本人様のプライバシーに配慮して安全確認を行なっている。		職員はご利用者様を見守りできるように、全体を見渡せる場所で仕事を行なうようにしている。また、外出しようとしても、安全確認ができるならば、すぐに声を掛けないでしばらく見守ってから声を掛けるようにしている。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご本人の状態を把握し、職員会議等で協議して物品の保管、管理に務めている。		ご本人の危険が危ぶまれる物品があった時は、基本的には本人に説明し納得を得るようにしている。煙草を好む方には、職員が管理し、希望の時に楽しむようにご本人に納得していただき、安全に努めている。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書やひやりはっなどで事故等を職員会議やミーティング等で検討し、改善に取り組んでいる。		事故など運営推進会議でも取り上げていて、そこで出た意見は職員間で検討し改善策に取り入れている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法を消防署から講習をしてもらったり、併設施設看護師や協力医やその看護師その都度指導を受けている。		職員全員で受ける救急講習は年1～2回行なっている。また、その都度医療従事者から受けた指導は申し送り簿を通して全職員が共有している。今後、内部研修に取り入れて定期的に訓練していきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に、消防署同席の元非難訓練を日中と夜間を想定して、訓練を行い、消防署から評価してもらっている。評価の中では、地域との連携の指摘にあり、地域消防団には承諾をもらっている。しかし消防署からは近所の協力をもらえるようにと指導されて事もあり、働きかけてはいるが環境的なこともあり、すすんでいない。		今後も継続的に協力をお願いしていく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時にご家族やご本人にリスクは説明している。また生活していく中でリスクの可能性になる案件については、その都度説明してご利用者様にとってよりよい生活が送れるように対処している。		ご家族やご本人の意向をお聞きして、できるだけ希望にそるように対処策を職員間で話し合っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、決まった時間にバイタル測定を行い、異常の発見に努めている。また入浴を毎日行なっているため、その時に全身のチェックを行い、早期発見の努めている。		異常の発見時は、併設施設の看護師に診てもらったり、電話で協力医に相談して、受診等ができるようにしている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や薬辞典で薬を理解し、申し送りなどを活用して職員間で共有している。異常や変化が見られるときは、主治医に相談して指示を仰いでいる。		薬は個人ごとにピルケースで保管し、ご利用者様が飲み込むまで見守りしている。またピルケースには個人ごとに何錠か何袋かを記載し確認して内服支援している。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材や水分補給に配慮したり、毎日の体操も行なっている。また、便秘に効果のあるヨーグルトをおやつの中の時の摂取するようにして便秘に対応している。		排便コントロールができないご利用者様には排便チェック表を記録し排便パターンの把握に努めている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人一人に応じた声掛けや対応をして歯磨きを行なっている。		必要に応じては介助している。協力医に口腔ケアの指導もいただいている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は生活記録に記入し職員全員で把握し、水分量が少ない人には申し送り等で職員に連絡している。		水分がとれない場合、ゼリーにしたり、アイスやプリン、ノンアルコールビールなど個人の嗜好品で水分の摂取ができるように支援している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の関しては、取り決めがあり、マニュアルを台所に貼ったり、マニュアルが事務所でみて確認できるようにしている。		職員が出勤したらすぐうがいと手洗いをするよう徹底している。また、玄関に面会者などにアルコール職毒を呼びかけアルコールを設置したり、食事前にはご利用者様に手洗いをするよう声掛けや支援をしている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防の為のマニュアルがあり職員が共有できるように事務所の決まった場所に設置している。まな板の消毒のマニュアルがあり毎日実施している。		食材は週3回仕入れしていて、賞味期限など確認しながら、新鮮な食材を使用している。また、作りおきはせずに、調理してからすぐに食べるようにしている。また、残りは廃棄している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周りには、植木や草花を配置し、中庭には畑もある。天気のよい日には、ご利用者様と職員で草取りをしたり、野菜を収穫している。		プランターに季節の草花を配し、玄関に設置している。掲示版には、子供たちが書いた絵も掲げてある。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に季節の飾りをしたり、パッチワークやカレンダーなど手作りの品を取り入れている。畳スペースにテレビがありソファも配置していて、ご利用者様が思い思いに過ごせるように工夫している。		毎月カレンダーをご利用者様が作っており季節感が出るようにしている。また、季節感が出るように折り紙や飾り物をしている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子を設置したり、渡り廊下で隣のユニットを自由に行き来できたりしている。		時々、両ユニット合同の食事やレクリエーション、外出を行い、馴染みの関係の支援をしている。ひとユニットでの居場所が無くなった時は、別ユニットで過ごすことによって、戻ってきても気分よく過すことが多い。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や面会などの時には、馴染みの品を持って着いたできるように相談している。自宅で使っていた馴染みの物があることによって安心して過せるようにしている。		自宅で使っていたタンスや鏡台、ぬいぐるみなどをご家族様に説明し、協力を得て、心地よく過ごせるようにしている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	清掃時や夜間に換気をしている。換気の際は、ご利用者様に確認してから行い、常に温度調節に気配りしている。		リビングに湿度と温度計があり、冬期間には加湿器を稼働して、湿度、温度調節に配慮している。換気する時は、ご利用者様に説明してから行なっている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体が広くできており、車椅子でも安全に移動できる。また、廊下には手すりがあり、安全に自立できるように配慮している。		広い廊下の手すりを利用して、必要に応じて機能訓練を行なった。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員が一人一人の能力を把握し共有する事にとって、ご本人の能力に応じた作業をできるように支援している。たとえ、失敗があっても、励ましの声掛けをかけながら、できる自信を持って暮らせるように、支援している。		ユニット会議や職員会議、また申し送り等を活用して、ご利用者様の情報を共有し、個々の持っている力を引き出すように職員間で話し合いながら、工夫をしている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭の畑で野菜を収穫したり、昼食をたべたりして活動している。		天気のよい日は、玄関前で体操をしたり、草取りや畑作業をしている。また、中庭で、昼食を食べたり、レクリエーションを楽しんでいる。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム加治川の里は、開所以来、「笑顔が絶えないグループホーム」を目指して来ました。開設から4年の月日が過ぎ、ご本人様やご家族の希望で、協力医はじめ多くの方のご協力の下で、3名の看取りを経験することができました。そこで、ご利用者様とご家族様、職員のそれぞれの苦悩や思いを知り、私達なりに力を尽くしてまいりました。高齢者介護、特に認知症の介護はご家族の関係に多様な形で影響を及ぼします。その中で、私達グループホームの役割を考慮しながら、みんなが笑顔で過ごせるように努力していきたいと思っています。